Ⅱ　施　　策

第二次富士市教育振興基本計画で掲げる方針に基づき行う本年度の取組について記載しています。

【方針１】　明日を拓く人材を育成する教育基盤の推進

【方針２】　学びを楽しみ、輝く子どもの姿を実現する学校教育

【方針３】　生涯にわたって学び続ける「ふじの人」の育成

【方針１】　明日を拓く人材を育成する教育基盤の推進

〔施策の柱１〕　新たな時代に対応する取組の推進

本年度は、第二次富士市教育振興基本計画（令和４年～令和 13 年度）に基づく教育行政の実施４年目となります。現代は、AI の急速な普及、急激な環境変動や紛争など、次々と変化が起こる予測困難で不確実な時代、いわゆる VUCA[1]の時代と言われています。また、今日の教育を取り巻く環境においては、誰一人取り残さない教育の実現を目指した教育機会の確保、少子化による児童生徒数の減少、学校施設の老朽化等、適切に対応すべき喫緊の課題が山積しています。このような中、子どもたちが未来を幸せに生き抜くことができるよう、教育委員会として「今できること」を着実に実行していく必要があります。

新たな時代を生き抜く子どもたちには、自分のよさや可能性を認識し、それぞれの個性を発揮するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り拓き、ウェルビーイング[2]の創り手となることが求められています。これらの教育を取り巻く環境の変化や、求められる資質・能力の育成に対応し、子どもたちにとって豊かな学びに直結する、新たな時代に対応する教育の土台ともいうべき基盤づくりを推進していきます。

GIGA スクール構想[3]による１人１台端末環境を活かし、小・中学校では ICT を効果的に活用した授業の実践や研究を進め、更に充実させていきます。特に、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、深い学びにつなげるとともに、子ども一人一人が主体的に学びに向かう授業づくりを目指していきます。また、GIGA タブレット端末の更新など、GIGA スクール構想を着実に推進するための環境整備を行ってまいります。

学びの連続性を意識した教育の推進においては、令和６年度から全ての中学校区で実施されている小中一貫教育[4]の更なる充実を図るために、小中学校の児童生徒・教職員の協働活動を通して、各中学校区の特色ある教育活動を推進していきます。さらに、富士川第一小学校・富士川第一幼稚園・岩淵保育園の研究の成果である、幼小の接続期カリキュラムを他校区でも共有し、保育士・幼稚園教諭等と小学校教員が互いの教育を理解し合うことで、子どもたちが安心して小学校生活を送ることができるようにしていきます。

---

[1] VUCA とは、Volatility（変動性）・Uncertainty（不確実性）・Complexity（複雑性）・Ambiguity（曖昧性）の頭文字を取った造語で、社会やビジネスにとって、未来の予測が難しくなる状況のことを意味する。

[2] 個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念のこと。

[3] 児童生徒１人１台端末、及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させるための構想

[4] 小・中学校同士で情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す小中連携教育のうち、小・中学校で目指す子ども像を共有し、９年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を行う教育

学校と地域の連携・協働に関する取組では、市内全小中学校がコミュニティ・スクール[5]となり２年目になります。学校運営協議会における熟議を充実させ、保護者や地域住民の声を積極的に生かすことで、それぞれの校区ごとに特色ある「地域とともにある学校づくり」を一層推進し、学校と地域が共に発展していくことを目指していきます。

部活動の地域連携・地域移行においては、子どもたちにとって持続可能で望ましいスポーツ・文化活動の在り方について協議を進め、本市としての方向性を示す基本方針を策定してまいります。

各施策の重点事業（☆新規・重点事業）
【施策①】Society5.0[6]に対応する教育の充実
☆ GIGA タブレット端末の更新を行う。 ・ 指導主事や外部講師、ICT 支援員等による様々な研修の機会（校内研修、アフター５講座[7]等）において、教職員の ICT 活用及び指導に関する資質能力向上を目指す。 ・ 指導主事訪問等を通して、個別最適かつ協働的な学びを実現するための授業づくりの視点を示し、各校での実践の共有等により、授業改善につなげる。
【指標に関する取組】 **多様なニーズに対応した情報教育研修会の充実** **【指標】教員の ICT 活用指導力の状況において、「できる」「ややできる」と回答した教員の割合** **【R6 実績/ R7 目標/R8 目標】86.6%/92%/100%**
【施策②】学びの連続性を意識した教育の推進
・ 中学校区ごとに学びの積み重ねを重視した授業づくりについて研修を深めるとともに、小中学校で一緒にできる共通の取組（軸となる取組）で協働する。 ・ 児童生徒・教職員の協働活動や小中合同行事等、施設分離型での取組内容やその成果を広報し、小中一貫教育推進につなげる。 ・ 幼児期において、遊びを通して育まれた力が、小学校でも円滑に接続されるよう、生活科を中心に合科的[8]・関連的な指導や弾力的な時間割の設定に努める。 ☆ 「幼保小の架け橋期のカリキュラム」の作成に向け、保育士・幼稚園教諭等と小学校教員が互いの教育を理解し合い、支援の仕方や指導法を学び合う研修を進める。
【指標に関する取組】 **教職員同士の協働による、連続性や系統性のある学習支援や生徒支援の充実** **【指標】小中を一貫した教育活動が、子どものよりよい学びと生活につながっていると感じる連携推進員の割合** **【R6 実績/ R7 目標/R8 目標】100%/100%/100%** **【追加指標】小中を一貫した教育活動が、子どものよりよい学びと生活につながっていると感じる教職員の割合** **【R6 実績/ R7 目標/R8 目標】84.9%/92%/100%**

[5] 学校と地域住民、保護者の協働による学校運営が可能となる「地域と共にある学校」を実現するための仕組み
[6] サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、国の第５期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。
[7] 急速な社会変化と教職員のニーズに対応した自主参加型研修。勤務時間終了後に行われている。
[8] 各教科のねらいを達成しやすくするために、複数の教科の内容を合わせて指導すること。

【施策③】地域とともにある学校づくり
☆ コミュニティ・スクールへの理解を深め、制度をより有効に活用するために、CS ディレクター[9]や教職員、学校運営協議会委員への研修を充実させる。 ・ 地域の声を生かした学校づくりや地域の力を活用した教育活動の推進、子どもの地域行事への参画、地域学校協働活動の促進等について実践していく。 ・ CS ディレクター定例会を開催し、地域と学校がよりよくつながっていくよう、地域の特色に応じた取組等の情報共有をし、協議会の円滑な運営や熟議の充実、地域と学校の連携・協働の在り方について理解を深める。
【指標に関する取組】 **コミュニティ・スクールの充実** **【指標】コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まったと回答した学校の割合** **小学校【R6 実績/ R7 目標/R8 目標】100%/100%/100%** **中学校【R6 実績/ R7 目標/R8 目標】73.4%/90%/100%**
その他の事業
・教育委員研修（今日的な課題研究、学校・教育施設等の視察）の実施
・教育委員会広聴事業「ふじの教育懇談会」の実施
☆部活動地域連携・地域移行に向けた基本方針の策定

教育委員研修
（学校訪問）

地域の方と語る会

[9] コミュニティ・スクールの運営や学校種間の調整、分野横断的な活動の総合調整など統括的な立場で調整等を行う地域人材

〔施策の柱２〕　誰一人取り残さない社会を目指した教育の充実

私たちを取り巻く社会情勢や教育環境は、急速な情報化、技術進歩の中、より良い社会や学びを他者との協働の中で創り出す時代へと移り変わってきました。このような中、誰もが未来を拓く力を身に付けられる、誰一人取り残さない社会を目指した質の高い教育が求められています。

そこで、SDGｓ[10]未来都市である本市では、輝く未来を拓く人を育むためのESD[11]の推進を図るため、民間企業と教職員が協議を行い共同で作成した「子ども社会体験科『しくみ～な[12]　ふじ』」を導入し、社会の仕組みを体系的に学ぶ学習活動を通して、「自分と社会の幸せを両立し、しなやかに生きる力」、「地域社会・経済の担い手となる意欲」などを育てていきます。令和７年度は、導入校を増やして実践していきます。

特別支援教育については、発達に課題をもつ子どもの困り感に寄り添い、よりきめ細かな支援を行うため、特別支援サポート員[13]や生徒指導サポート員[14]を学校の規模や児童生徒の状況を考慮して配置します。また、子どもや保護者の困り感に寄り添った早期支援、早期対応を行うため、特別支援教育センターを拠点に、専門職による学校訪問支援や保護者相談、巡回学習相談員による保護者・学校支援、関係機関との連携を充実していきます。さらに、通常学級に在籍する個別の支援を必要とする児童生徒が、通級指導教室[15]での指導をより受けやすくなるよう、計画的に自校通級[16]を拡充していきます。

不登校児童生徒等の社会的自立を促すため、富士第二小学校をモデル校とし、子どもが気軽に立ち寄ることができる（仮称）「ほっとルーム」を設置します。

さらに、多様性を大切にする社会意識の高まりや、外国人児童生徒数の増加に伴い、外国人児童生徒の在籍校での支援を充実させるとともに、令和５年度に開設した田子浦小国際教室の開級日を週４日から５日に、また令和６年度新規任用したベトナム語支援員の勤務を週２日から３日に増やし、支援を希望する児童生徒への個別指導を行うことで、個に応じたきめ細かな日本語指導や教科指導の充実を図っていきます。

近年、子どもの数は減少しているものの、不登校の子どもの数は、増加傾向にあります。しかも、別室登校やフリースクール等の利用もできず、自宅にひきこもり状態である子どもが少なくありません。このような状況を受け、「ステップスクール・ふじ」では、児童生徒が安心して過ごせる居場所であるとともに、多様な学びができる環境を提供し、自分のペースで社会や人とかかわり合いながら社会的な自立ができるよう支援していきます。

また、若者相談窓口『ココ☆カラ』では、ニート・ひきこもり・不登校など社会生活を営む上で困難を抱える若者及びその家族に対して、それぞれの状況に寄り添った支援を行い、社会参加を促していきます。

---

[10] SDGsとは持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）のこと。2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際社会共通の目標

[11] ESDはEducation for Sustainable Developmentの略で、「持続可能な開発のための教育」のこと。

[12] 学内授業と学外体験施設での社会活動を通して世の中の仕組みを学習すること。

[13] 通常学級で特別な支援を必要な児童生徒の対応に当たる特別支援教育サポート員と、特別支援学級に配置される特別支援学級サポート員のこと。看護士資格や介助員の資格を持ったサポート員も含む。

[14] 主として中学校に配置されるサポート員。不登校生徒の対応や通常学級で困り感を持っている生徒の対応などにあたる。

[15] 通常学級に在籍し、授業の中で困難さを感じている子どもに対して、一部の授業を別の教室で個に応じた教育課程に基づいた内容で受ける制度のこと。

[16] 通級指導教室が設置された学校に在籍する子どもが、自分が在籍する学校の通級指導教室に通う形態

今後も、子どもや若者、一人一人の思いや立場を尊重し寄り添いながら、自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立できるよう、個に応じた適切で温かな支援を続けていきます。

各施策の重点事業（☆新規・重点事業）
【施策①】SDGｓ達成に向けた取組の推進
・ SDGs に関するテーマをカリキュラムに組み込み、持続可能な開発目標について理解する。 ・ 学校が地域社会や企業と連携することを強化する。 ・ 民間企業と協働で、社会の仕組みを体系的に学ぶ「子ども社会体験科『しくみ～な　ふじ』」を導入校を増やし、実践につなげる。 ・ 各校において各教科等における ESD 実践の情報共有、研修の機会を確保する。 ・ 子どもたちが「自分ごと」として取り組むことができるよう、各教科等において ESD の推進を図る。 ・ 学校図書館において、SDGs 関連の資料を整備し活用する。
【指標に関する取組】 **SDGｓの達成に向けた教育活動の充実** **【指標】「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合** **小学校【R6 実績/ R7 目標/R8 目標】83.2%/86%/90%** **中学校【R6 実績/ R7 目標/R8 目標】74.6%/77%/80%**
【施策②】特別支援教育の充実
☆ 自校通級を計画的に拡充する。（Ｒ７から開設の自校通級：富士中央小、田子浦小）（既存との合計：言語通級[17]が３校、発達通級[18]が小学校９校、中学校９校） ・ 特別支援学級担任、通級指導教室担当者を対象とした研修を実施する。 ・ 夏季研修会等で小中学校の教員を対象に、特別支援教育に関する研修を実施し、理解を深める。 ・ 特別支援教育学習相談員 （巡回学習相談員）を配置し、通常学級に在籍する個別の支援が必要な児童生徒に、それぞれの特性に応じた教育的支援の充実を図る。 ・ 特別支援サポート員の適切な配置による個別支援体制の充実を図る。 ・ 特別支援教育センター専門職による小１訪問や、１年生のひらがな音読支援の充実を図る。 ・ 特別支援学級の新設（自閉・情緒学級：富士見台小、吉原第二中、富士川第二中）
【指標に関する取組】 **特別支援サポート員の研修の充実** **【指標】特別支援サポート員等の研修満足度（５段階評価の平均値）** **【R6 実績/ R7 目標/R8 目標】4.5/4.6/4.7**

しくみ～な　タウンミーティングの様子

[17] 言葉の発達が遅かったりや吃音があったりなど、話し言葉に困り感をもつ児童が、個々の実態に応じた個別の指導を受けることができる教室

[18] 人とうまく関われなかったり、漢字がなかなか覚えられなかったりなど、生活面や学習面の一部に困り感をもつ児童生徒が、個々の実態に応じた個別の指導を受けることができる教室

【施策③】外国人等の児童生徒への支援
・外国人児童生徒が安心して学校生活を送り、中学校卒業後の進路選択に希望が持てるよう、特に日本語指導の必要な児童生徒への支援の充実を図る。 ・初期支援、訪問支援や国際教室での支援の質を向上させるため、外国人児童生徒支援員の研修を進める。 ☆令和５年度新規開設した田子浦小国際教室の開級日を週４日から５日に、また令和６年度新規任用したベトナム語支援員の勤務を週２日から３日に増やし、支援を希望する児童生徒への個別指導を充実させる。
【指標に関する取組】 **個に応じた日本語指導、学習指導の充実** **【指標】日本語指導が必要な児童生徒に対する「特別の教育課程」実施の割合** **【R6 実績/ R7 目標/R8 目標】73.4%/75%/80%**
【施策④】学びのセーフティネットの充実
・「ほっとデジタル相談・ふじ」による、相談業務の充実を図る。 ・「ステップスクール・ふじ」では、 様々な理由により学校に行けない子どもたちや登校しにくい子どもたちに、時間と場所を提供し、集団生活やカウンセリングを通して、社会的に自立していくための支援を行う。 ☆小学生のためのスペースや個別学習スペースを整備する。 ☆不登校児童生徒等の社会的自立を促すため、富士第二小学校をモデル校として、児童が気軽に立ち寄ることができる（仮称）「ほっとルーム」を設置する。
【指標に関する取組】 **「ステップスクール・ふじ」の相談業務や運営の充実** **【指標】ステップスクール・ふじを利用した中学３年生のうち、自分なりの進路が見いだせた割合** **【R6 実績/ R7 目標/R8 目標】100%/100%/100%** **【追加指標】富士市内の不登校児童生徒のうち、ステップスクール・ふじを利用した児童生徒の割合** **【R6 実績/ R7 目標/R8 目標】9.6%/30%/30%**
その他の事業
・保護者教室、合同相談会の開催
・富士市若者相談窓口「ココ☆カラ」の運営
・困難を抱える若者やその家族を支援する人材「若者サポーター」の育成

「ステップスクール・ふじ」体験学習の様子

〔施策の柱３〕　安全・安心で充実した教育環境の提供

学校施設の延床面積の約６割が、築40年以上の建物で、かつ、改修を要する状況であり、安全・安心な教育環境を提供する上で、老朽化対策が急務となっています。また、災害発生時の避難場所など地域の拠点的機能としての重要度が年々増しており、学校施設には地震や豪雨などの自然災害発生直後も使うことのできる強靭さが求められています。

併せて、近年の厳しい財政状況を踏まえ、財政負担を平準化し、中長期的な維持管理費の削減を図るため、「富士市学校施設長寿命化計画[19]」に基づき、長寿命化改修等を確実に進めているところです。

本年度も引き続き、校舎の屋上防水、外壁改修、トイレ改修、校舎内部改修及び屋内運動場のリニューアル改修などの長寿命化改修を実施していくほか、老朽化した田子浦小学校の校舎については、改築のための新校舎整備基本構想を検討します。

また、岳陽中学校では引き続き武道場の建設工事を着実に進め、供用を開始します。

なお、令和８年度以降における学校施設長寿命化の実施計画については、現在改定中の「富士市公共施設マネジメント基本方針[20]」との整合を図りながら見直していきます。

さらに、誰もが安全に安心して学校施設を利用できるように、段差解消のためのスロープ整備やバリアフリートイレの設置を行います。

また、各給食室の改修期間中における給食の継続提供の方策などを検討します。

各施策の重点事業（☆新規・重点事業）
【施策①】安全・安心な学校施設整備の充実
・避難場所である学校の屋内運動場にバリアフリートイレの設置をする。（神戸小、須津中ほか） ・児童生徒用トイレの洋式化、乾式化、非接触型水栓の設置等の改修を行う。（富士南小、吉原第一中ほか）
【指標に関する取組】 **トイレの洋式化やバリアフリートイレの設置推進** **【指標】バリアフリートイレの設置率** **【R6 実績/ R7 目標/R8 目標】75.0%/85%/90%**
【施策②】より良い教育環境の維持・整備
・校舎や屋内運動場の屋上・屋根防水や外壁改修を行う。（大淵第一小、吉原第二中ほか） ・教室の床・壁・天井などの内部改修を行う。
【指標に関する取組】 **学校施設ごとの長寿命化計画に基づいた施設の維持改修** **【指標】長寿命化計画の進捗率** **【R6 実績/ R7 目標/R8 目標】64.2%/85%/100%**
その他の事業
☆老朽化した田子浦小学校の校舎改築を機に、新校舎整備基本構想を検討
・岳陽中学校に建設中の武道場を供用開始し、教育環境を改善
☆持続可能な学校給食の運営検討
・遠距離通学をしている子どもたちへの通学支援（スクールタクシー等）の実施

[19] 学校施設の長寿命化に必要となる改修等の内容、時期、費用等を示し、長期的な財政負担の軽減・平準化を図り、施設整備を実施するための計画

[20] 本市における公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するための基本的な指針として位置付けるとともに、地方における行動計画である「公共施設等総合管理計画」に相当するものであり、「富士市学校施設長寿命化計画」の上位計画である。